

神経筋難病病棟で働く看護師のストレスの現状

－病棟内アンケート調査からみえたもの－

山田成功¹⁾ 池田紀子^{1)*} 片山恵子¹⁾ 藤原早弥香¹⁾ 圓井和恵¹⁾ 木下まり子¹⁾

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 1 病棟

Stressful situations for nurses in the ward for intractable neuromuscular diseases

－ Understanding the situation through a questionnaire survey among these nurses －

Naruo Yamada¹⁾ Noriko Ikeda^{1)*} Keiko Katayama¹⁾ Sayaka Fujiwara¹⁾

Kazue Marui¹⁾ Mariko Kinoshita¹⁾

1) The 1st Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

*Correspondence: byoutou1@tottori-iryu.hosp.go.jp

要旨

神経筋難病病棟の看護師は、常に何らかのストレスを抱えながら看護を行い、それが日々の看護に影響を及ぼす可能性が考えられる。しかし、具体的に何に対してストレスを感じているのか明らかにされていない。ストレスの存在を職場全体の共通の認識とし、取り組むことが重要である。そこで、神経筋難病病棟での看護師のストレスについてアンケート調査・分析した。

その結果、「上司との葛藤」を除く全てのアンケート項目にはストレスを感じていること、看護師にとってのストレスの一因として神経筋難病患者のケアの特殊性があること、「情動制止困難」の症状が「仕事の量的負荷」「患者や家族の支援困難」「患者や家族との関わり」「ケアと成果の不均衡」のストレスに繋がること、「患者の死」に関して臨床経験年数が長いほどストレスを弱く、短いほどストレスを強く感じていることがわかった。鳥取臨床科学 3(1), 52-62, 2010

Abstract

Nurses in wards admitting patients with intractable neuromuscular diseases constantly face severely stressful situations that affect their daily nursing practice. However, it remains unclear which factors cause such stress and influence their nursing performance. This study investigated these stress-causing factors, evaluated them as common problems in the wards, and developed strategies to cope with these problems. For this purpose, we conducted a questionnaire survey among nursing staff in the ward for intractable neuromuscular diseases, and analyzed the data. The questionnaire included 11 items: conflicts with medical doctors, superiors and colleagues; patient deaths; quantitative overload of nursing tasks; difficulty in supporting patients and their families; relationship with patients and their families; tasks for maintaining patient's life; denial of identity or roles as nurses; poor prognosis and future of patients; and imbalance between actual nursing care and outcomes.

The present data indicate that the nurses experience severe stress related to 10 of the 11 items, excluding conflict with superiors. This stress is partly derived from the nursing practice specifically for patients with intractable neuromuscular disorders. It is difficult for nurses to regulate the emotional excitation specifically expressed by such patients, and this may accelerate the stressful situations that originate from the quantitative overload of nursing tasks, difficulty in supporting patients and their families, relationship with patients and their families, and imbalance between actual nursing care and outcomes. Furthermore, our results demonstrated that nurses with more profound experiences felt less stress about patient deaths. Tottori J. Clin. Res. 3(1), 52-62, 2010

Key Words: 神経筋難病, 看護師のストレス, アンケート; intractable neuromuscular diseases, nurses' stress, questionnaire survey

はじめに

神経筋難病は、疾患の進行とともに徐々に身体機能の障害をもたらし、日常生活においても全介助を要し、個別性が高い援助が要求される。それに加え、患者は病気の進行とともに不安・焦燥感が増し、訴えの手段としてナースコールに頼らざるを得なくなる。そのため、医療者への依存傾向が強くなってしまふことがある。日常生活の中で些細と思われることでも繰り返し訴えたり、わずかな知覚刺激によっても過敏に訴えるなど、自分の気持ちが抑えられなくなり、過度に表現されてしまふことがある。それに対応する事で、患者と看護師が互いに苛立ち・不安等の感情が見られることになる。

また、人工呼吸器装着患者は、人工呼吸器が生命に直結しているため、それに留意しながらケアを行うことが、看護師にとってストレスの一因となるケースもあり得る。コミュニケーションにおいても、アイサインや文字盤を使用しており、これらの手段を取るには時間と労力を要する。

それだけでなく、看護師は患者や家族との関わりや、ケアや処置に対する緊張や不安、高度医療機器の対応など、常に何らかのストレスを抱えながら看護を行っている。それらのことが、日々の看護に影響を及ぼす可能性も考えられる。しかし、具体的に何に対してストレスを感じているのか明らかにされていない。吉本¹⁾は、「まず何よりも職場におけるストレスの存在を決してタブーにしないで、しっかりと職場全体で共通の認識にすることから始めて、次に現場のストレスを全体の問題として取り組むようにしましょう」と述べている。そこで、A病棟での看護師のストレスについて調査し分析したので、ここに報告する。

用語の定義

ストレス: 本研究では、仕事に関連するストレ

スのみをストレスと定義する。

I. 研究方法

1. 研究目的

A病棟での看護師のストレスの現状を調査し、把握する。

2. 研究対象 (表1)

神経筋難病病棟に勤務する看護職員(看護師, 准看護師) 22名 (師長, 副師長も含む)。

3. 研究期間

平成21年4月1日～平成21年12月31日。

4. データの収集ならびに分析方法

- (1) 野村²⁾らが行った、「神経難病患者をケアする看護師のストレスについて考える」をもとに、選択式のアンケートでは「ストレスをとて強く感じる」を3, 「ストレスを強く感じる」を2, 「ストレスをやや感じる」を1, 「ストレスを感じない」を0とし、A病棟の独自性を踏まえたアンケートの質問を作成した(図1)。
- (2) 研究対象者に研究内容の説明を行い、同意を得た。
- (3) 研究対象者にアンケート用紙(図1, 2)を配布し、記載してもらった。
- (4) 記載された結果を集約し、量的・質的に分析した。
- (5) 選択式のアンケート(図1)では、各経験年数の人数のうち、0～3がそれぞれ何人いたかの割合を算出し、パーセントで表示した。つまり、臨床経験年数や神経筋難病病棟での経験年数(難病経験年数)とストレスの状況についての関係をみた。
- (6) 記述式のアンケート(図2)では、回答を選択式のアンケートに準じてカテゴリー化し分類した。

II. 倫理的配慮

1. この研究への参加・協力は、自由意思によるものとした。